

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 8 月 21 日現在

機関番号：24402

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2016

課題番号：25760013

研究課題名(和文)日本における男性と性行為を行う男性の多様な性の様式とHIV感染予防に関する研究

研究課題名(英文)Research into Various Types of Sex among Men who have Sex with Men in Japan and HIV Prevention

研究代表者

新ヶ江 章友 (SHINGAE, Akitomo)

大阪市立大学・大学院創造都市研究科・准教授

研究者番号：70516682

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：現在日本では、MSM(Men who have Sex with Men、男性と性行為を行う男性)のHIV感染が問題となっている。そのため疫学は、MSMをHIV感染予防施策の重点的な対象としてきたが、そこでは主に「ゲイ」や「同性愛者」を自認するMSMが対象とされてきた。一方本研究は、MSMのなかでも「ゲイ」や「同性愛者」だと自認しない女装するMSMや、女装するMSMと性行為を行う(異性愛者を自認する)MSMに着目する。これらの人々は、従来のHIV感染予防施策の主な対象とされてこなかったが、潜在的なHIV感染リスクにさらされている。

研究成果の概要(英文)：In Japan, HIV infection among MSM(Men who have Sex with Men) is an crucial issue. As a result, MSM have become a target for HIV infection prevention measures in epidemiology, but the subjects there have been the restricted MSM who acknowledge themselves as "gay" or "homosexual." On the other hand, the focus of this research is MSM who dress as women and do not acknowledge themselves as "gay" or "homosexual" and MSM(who acknowledge themselves as heterosexual) who have sex with MSM who dress as women. While these people have not been a main focus of HIV infection prevention measures to date, they are potentially at risk for HIV infection. This research will clarify what types of prevention intervention measures are effective for them.

研究分野：文化人類学

キーワード：HIV/AIDS MSM 性自認 語り 日本 性行動 クィア コミュニティ

## 1. 研究開始当初の背景

厚生労働省エイズ動向委員会の発表によると、平成 22 年に新しく HIV に感染した人の数は 1,075 人であったが、そのうち同性間の性的接触によって HIV に感染した人の数は 744 人(全 HIV 報告者数の約 69%)であった。日本における男性同性間の性的接触による HIV 感染は、本研究開始前の平成 24 年当時、増加していた。

平成 10 年に制定された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(以下、「新感染症法」とする)」の第 11 条において、「厚生労働大臣は、感染症のうち、特に総合的に予防のための施策を推進する必要がある」感染症について「特定感染症予防指針」を作成し、公表すると定めている。

とりわけ HIV/AIDS に関しては、「後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針(以下、「エイズ予防指針」とする)」が定められており、その中で「国及び都道府県は、個別施策層(感染の可能性が疫学的に懸念されながらも、感染に関する正しい知識の入手が困難であったり、偏見や差別が存在している社会的背景等から、適切な保健医療サービスを受けていないと考えられるために施策の実施において特別の配慮を必要とする人々)に対して、人権や社会的背景に最大限配慮したきめ細かく効果的な施策を追加的に実施することが重要」であると指摘しており、個別施策層としては、「青少年」や「外国人」の他に、「性的指向の側面で配慮の必要な同性愛者」が挙げられている。

報告者は平成 11 年より、日本における HIV/AIDS の流行と「男性同性愛者」との関係について継続的に研究を遂行してきた。具体的には、1980 年代以降の HIV/AIDS の社会問題化を、ゲイ・コミュニティやゲイ・アイデンティティとの関係から分析した [新ヶ江 2013]。また、平成 20 年からは、厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「男性同性間の HIV 感染対策とその介入効果に関する研究」(研究代表者:市川誠一)において、財団法人エイズ予防財団リサーチ・レジデントとして医療人類学と疫学の立場から調査を行った。報告者は主に、福岡市、名古屋市、仙台市の「男性同性愛者」に対する HIV/AIDS 予防のためのプログラム構築に従事してきた。

これまで疫学は、「男性同性愛者」を「MSM (Men who have Sex with Men、男性と性行為を行う男性)」と定義し、HIV/AIDS 予防対策を実施してきた。HIV 感染リスクは「男性同性愛者」というアイデンティティではなく男性同性間の性行為そのものに

あるため、「MSM」という表現が 1980 年代から疫学研究者の間で使用されはじめた。

疫学は、日本在住「MSM」の HIV 感染リスク行動についてのデータを蓄積してきたが、日本の場合、そこで想定されていたのは「ゲイ」や「同性愛者」を自認する「MSM」であり、自らを「ゲイ」や「同性愛者」だと自認しない「女装する MSM」や、「女装する MSM」と性行為を行う(異性愛者を自認する)「MSM」の存在は考慮されてこなかった。これは、従来の「MSM」に対する HIV 予防施策が、「ゲイ」や「同性愛者」を自認する「MSM」が多く集まる繁華街を中心として展開されてきたからであり、「女装する MSM」や、「女装する MSM」と性行為を行う(異性愛者を自認する)「MSM」は、「MSM」の集まる繁華街へのアクセスがほとんどなかったからである。

## 2. 研究の目的

上記の背景をふまえ、本研究ではとりわけ、「女装する MSM」、「女装する MSM」と性行為を行う(異性愛者を自認する)「MSM」の両方に特に着目し、彼らの語りと性行動について、「クィア人類学」の先行研究をふまえながら分析していく。「クィア人類学」とは、既存のジェンダー(男らしさ/女らしさ)やセクシュアリティ(同性愛/異性愛)という二元論的概念にとらわれることなく、実際の日常を生きる人々に即した自己認識や性行為について分析する研究領域である。男や女というジェンダー、同性愛や異性愛というセクシュアリティのカテゴリーは、人間の性の多様性を二元論的に還元してしまうため、人々が具体的にどのような性を生きているのかを分析できない。「クィア人類学」は、そのような二元論に囚われない人間の性の多様性を理解していこうとする [Boellstorff 2007; Valentine 2007]。

本研究において明らかにしようとした具体的な点は、以下のとおりである。

- 調査対象者が、どのような性自認を行っているのか。
- 調査対象者が、どのような性行為を行っているのか。
- 調査対象者が、HIV/AIDS の感染リスクをどのように認知しているのか。
- 調査対象者が、どのような人的ネットワークを形成しているのか。

## 3. 研究の方法

本研究では、「女装する MSM」と「女装する MSM」と性行為を行う(異性愛者を自認する)「MSM」を主たる調査対象者とし、インタビュー調査に基づく語りのデータ収集、人的ネットワークのなかでの参与観察、インタビュー内容の分析・考

察を行う。インタビューのなかでは、調査対象者の性自認、性行為、HIV/AIDS の感染リスク認知について詳細な聞き取りを行う。同時に参与観察も行い、彼/女らの間でどのような人的ネットワークが構築されているのかを、フィールドノートに記録していく。また調査の結果は、書籍や報告書のかたちで公開する他、随時、国内・国際学会報告や投稿論文により成果を世に問うていく。

#### 4. 研究成果

調査開始時、すでに報告者がインタビューを行っていた「女装する MSM」を起点として調査を始めたが、スノーボールサンプリング形式でのインタビューまでなかなか進まなかった。インタビューの協力をあおいでもある程度の信頼関係を構築しないと相手から警戒されてしまうため、この調査におけるラポール形成の重要性を痛感する結果となった。

調査開始後に「女装する MSM」もしくは「女装する MSM」と性行為を行う（異性愛者を自認する）「MSM」へのアクセスが難しかったこともあり、ゲイやバイセクシュアル男性を自認する「MSM」へのインタビューも同時に重ねていった。調査の計画段階で予想していたとおり、ゲイやバイセクシュアル男性を自認する「MSM」と、「女装する MSM」やそれら「女装する MSM」と性行為を行う（異性愛者を自認する）「MSM」の間にはあまり関わりがないということが調査で明らかとなったが、その一方で「女装する MSM」はゲイバーとの繋がりもあるため、報告者が当初予想していたように、「ゲイ」や「同性愛者」を自認する「MSM」と、「異性愛者」を自認する「MSM」がはっきり棲み分けているとは言い難い側面もあった。

フィールド調査を通して、「女装する MSM」へのインタビューも行った。そこで明らかとなってきたことは、「女装する MSM」との性関係をもつ男性の多くが自らを「異性愛者」と認識しており、なかには HIV に感染するリスクの高い性行為（コンドームを使用しないアナルセックス）を行っていた。「異性愛者」を自認する「MSM」は、「ゲイ」や「同性愛者」を自認する「MSM」と比較すると HIV 感染予防プログラムに曝露されておらず、「異性愛者」を自認する「MSM」は、男性同性間の性行為は妊娠しないため、コンドームを使用する必要がないと思うものが多かった。

しかしながら、まだデータの収集が十分ではない。本調査を行うにあたっては、トランスジェンダーやトランスセクシュアル（とりわけ FtM の方々）の協力が不可欠であった。調査を行う過程で、「女装する MSM」と接触・交流可能な飲食店や性風俗店が存在し、そこには「女装する MSM」と性行為を行う（異性愛者を自認する）「MSM」

がアクセスしていることも分かった。特に今回の研究では、「女装する MSM」と性行為を行う（異性愛者を自認する）「MSM」へのインタビューがまだ不足しており、さらに調査を重ねていながら、今後発表を随時行なっていきたいと考えている。インタビューは計 19 名に行なった。

#### <引用文献>

新ヶ江章友 2013 『日本の「ゲイ」とエイズ コミュニティ・国家・アイデンティティ』青弓社。

新ヶ江章友・金子典代・内海眞・市川誠一 2009 「HIV 抗体検査会に参加した東海地域在住 MSM (Men who have Sex with Men) の性自認と HIV 感染リスク行動」『日本エイズ学会誌』11(3): 255-262.

金子典代・内海眞・市川誠一 2007 「東海地域のゲイ・バイセクシュアル男性の HIV 抗体検査の受検動機と感染予防行動」『日本看護研究学会雑誌』30(4): 37-43.

Boellstorff, T. 2007 “Queer Studies in the House of Anthropology,” *Annual Review of Anthropology* 36: 17-35.

Carrillo, H. 2002 *The Night is Young: Sexuality in Mexico in the Time of AIDS*. University of Chicago Press.

Valentine, D. 2007 *Imaging Transgender: An Ethnography of a Category*. Duke University Press.

#### 5. 主な発表論文等 (研究代表者は下線)

〔雑誌論文〕(計 5 件)

新ヶ江章友、自民党「日本国憲法改正草案」とセクシュアルマイノリティ、日本の科学者、査読有、52 号、2017 年、pp.368-373

新ヶ江章友、ダイバーシティ推進と LGBT、地域活性化ニューズレター、10 号、2016 年、pp. 2-5

新ヶ江章友、人間学のキーワード「クィア」、月刊みんぱく、38 巻 6 号、2014 年、p.20

新ヶ江章友、書評 森山至貴(著) 『「ゲイコミュニティ」の社会学』、論叢クィア、6 号、2013 年、pp.135-148

Katano H, Yokomaku Y, Fukumoto H, Kanno T, Nakayama T, Shingae A, Sugiura W, Ichikawa S, Yasuoka A, Seroprevalence of Kaposi's sarcoma-associated herpesvirus among men who have sex with men in Japan, *Journal of medical*

virology 85, 2013, pp. 1046-1052

〔学会発表〕(計 12 件)

新ヶ江章友、性にまつわる「語られなかった物語」- HIV 陽性者の語りをめぐる分析から、シンポジウム 医療人類学にとってナラティブとは何か?、京都大学(京都府京都市) 2017 年 2 月 4 日

SHINGAE Akitomo, LDT(Liberal Democratic Party) Constitutional Reform and LGBT in Japan, 13th Japanese-German Frontiers of Science Symposium(JGFoS), Potsdam, Germany, 2016 年 10 月 7 日

SHINGAE Akitomo, Gay Men and HIV/AIDS in Japan: "Gay Communities", the State, and Gay Identities, International Symposium: LGBT Politics in Asia: Queering the State, Religion, and Family, Kyoto, Japan 2016 年 9 月 26 日

新ヶ江章友、日本におけるゲイ男性の主体化の系譜 - エイズから同性婚へ - (大会特別活動企画: 社会学とクィア・スタディーズの接点 - エイズ・アクティビズムを通して考える - )、2016 年度第 67 回大会関西社会学会、大阪大学(大阪府豊中市) 2016 年 5 月 29 日

SHINGAE Akitomo, LGBTs and Reproductive Treatment Technologies in Japan (Panel: Approaching "Technologized Bodies" and Related Sexuality and Gender Issues: Exploring Possibilities of Anthropology), IUAES (the International Union of Anthropological and Ethnological Sciences) 2016, Dubrovnik, Croatia, 2016 年 5 月 7 日

新ヶ江章友、はたして日本研究にとってジェンダー概念は有効なのか? - 人類学の視座から改めて問う、お茶の水女子大学創立 140 周年記念国際シンポジウム、お茶の水女子大学(東京都文京区) 2015 年 11 月 14 日

SHINGAE Akitomo, Reproductive Medicine and the Homosexual in Japan (Panel 'Technologies of Gender/Sexuality and Problematization of Human Ontology in Japan'), 26th JAWS(Japan Anthropology Workshop) Conference, Istanbul, Turkey 2015 年 9 月 3 日

新ヶ江章友、日本におけるエイズの言説と差別 - ジェンダー・セクシュアリティ・ナショナリズム、大阪市立大学・済州大学校学術交流協定締結 2 周年記念国際シンポジウム「マイノリティと人権」、大韓民国済州市、2015 年 5 月 19 日

SHINGAE Akitomo, Lives and Careers of Male Sexual Minorities and Male Gender in Contemporary Japan, 14th International

Conference of the European Association for Japanese Studies (EAJS) conferences, Ljubljana, Slovenia, 2014 年 8 月 29 日

新ヶ江章友、分断を超えて - エイズの場合を中心に、東京外国語大学フィールドネット・ラウンジ企画 シンポジウム「自助グループのエスノグラフィ」、東京外国語大学(東京都府中市) 2014 年 3 月 8 日

11 SHINGAE Akitomo, The moment to seek the "other side": Analyzing life histories of gay men in Japan, 17th World Congress of the IUAES (the International Union of Anthropological and Ethnological Sciences), Manchester, England, 2013 年 8 月 9 日

12 新ヶ江章友、「沈黙する他者 = HIV」と身体との対話 - 抗 HIV 療法の副作用としてのうつ病との関係から、日本文化人類学会第 47 回研究大会、慶應義塾大学(東京都港区) 2013 年 6 月 8 日

〔図書〕(計 6 件)

椎野若菜・的場澄人編、女も男もフィールドへ(FENICS 100 万人のフィールドワーカーシリーズ 12)、(株)古今書院、2016 年 ISBN:4772271333

東賢太郎・市野澤潤平・木村周平・飯田卓編、リスクの人類学: 不確実な世界を生きる、世界思想社教学社、2014 年 ISBN:4790716295

椎野若菜編、シングルのつなぐ縁 (シングルの人類学)、人文書院、2014 年 ISBN:440953047X

椎野若菜編、境界を生きるシングルたち (シングルの人類学)、人文書院、2014 年 ISBN:4409530453

アイファ・オング著(加藤敦典、新ヶ江章友、高原幸子訳)《アジア》、例外としての新自由主義、作品社、2013 年 ISBN:4861824443

新ヶ江章友、日本の「ゲイ」とエイズ: コミュニティ・国家・アイデンティティ、青弓社 2013 年 ISBN:4787233572

〔その他〕  
なし

6. 研究組織  
(1)研究代表者  
新ヶ江 章友 (SHINGAE, Akitomo)  
大阪市立大学・大学院創造都市研究科・准

教授

研究者番号： 70516682

(2)研究協力者

なし